

日本建築学会北海道支部
2005年度 通常総会

日時 2005年5月20日(金)
会場 北海道第二水産ビル

日本建築学会北海道支部

日本建築学会北海道支部 2005 年度総会議案

2004 年度事業報告

1 . 支部運営の諸会合の開催

総会

期日 2004 年 5 月 21 日
会場 道民活動センター かでる2・7
出席正会員 35 名 (委任状 19 通)

当支部地域在住正会員 921 名の 30 分の 1、30 名以上の出席により成立
2003 年度事業報告及び収支決算、ならびに 2004 年度事業計画方針案及び予算案を審議し、
異議なく可決承認された。

常議員会

7 回開催

常任幹事会

8 回開催

選挙管理委員会

1 回開催

2 . 学術系委員会の活動

2 . 1 学術委員会 (主査：野口 孝博君 委員数 16名 委員会開催数4回)

主な活動状況を、委員会の議題などで要約する。

第 1 回目 (6 月 17 日); 本部学術推進委員会報告 (以下本部報告)、各専門委員会及び特定課題研究委員会活動状況報告、支部研究発表会進捗状況報告

第 2 回目 (9 月 29 日); 本部報告、各専門委員会活動状況報告、支部研究発表会総括及び次年度開催校 (釧路高専) 決定、大賞候補審議

第 3 回目 (11 月 26 日); 本部報告、各専門委員会活動状況報告、建築文化週間報告及び次年度募集について、特定課題研究の募集について、支部研究発表会論文募集について、

第 4 回目 (2 月 21 日); 本部報告、各専門委員会及び特定課題研究委員会活動状況報告、次年度建築文化週間企画採用審査、次年度特定課題研究 (本部の支部助成含む) 採用審査、支部研究発表会進捗状況報告、平成 18 年度支部研究発表会開催校について

2 . 2 専門委員会の活動

材料施工専門委員会 (主査：濱 幸雄君 委員数 22 名 委員会開催数 6 回)

本年度は、専門委員会を2ヶ月に1回程度の割合で、計6回開催した。委員会では、本部材料施工本委員会など各種委員会報告や諮問事項についての検討し、材料・施工に関する情報や意見の交換を行った。また、興味ある話題や今日的な話題について事前に担当者を決め報告をしていた。最近の研究動向について意見の交換を行った。

2004 年 7 月 26 日に「レジデンスタワー大通公園新築工事」(札幌市中央区大通西 9 丁目 3-13、施工：清水建設、地下 1 階、地上 20 階、RC 造) の施工現場見学会を行い、18 名の参加があった。また、2005 年 2 月 18 日に 2004 年度支部共通事業「高強度コンクリート施工指針 (案) ・同解説」講習会への協力を行った。道内巡回講演会「建物診断とリフォーム (講師：松井為人委員)」を 2004 年 12 月 16 日に釧路工業高校にて実施した。

構造専門委員会（主査：武田 寛君 委員数 22 名 委員会開催数 4 回）

定期的に委員会を開催して構造関連の情報交換を行い、下記の活動を行った。特に、昨年度に引き続き北海道での自然災害が生じたが、迅速な被害調査体制の必要性を協議した。

- 1)委員会開催 例年通り委員会を4回行った(6月18日,9月28日,12月16日,3月17日)。
また、必要に応じて電子メールにて会議を行った。
- 2)見学会の実施 「ダイオキシン類除去工事を伴った清掃工場の解体工事」札幌市厚別清掃工場の解体工事現場の見学会で焼却灰に汚染された高さ100mのRC造煙突の解体を中心に見学を行った。2004年11月11日、参加者数38名
- 3)道内で発生した自然災害について調査の検討・実施を行った。北海道に甚大な災害をもたらした台風18号の被害調査に協力した。2004年12月14日に発生した留萌地震については、被害が軽微であり本委員会として特に調査はしなかった。
- 4)特定研究課題 当専門委員会が提案して採択された「鉄骨軸組みブレース被害調査」は今年度で終了した。

環境工学専門委員会（主査：福島 明君 委員数 26 名 委員会開催数 4 回）

2004年8月に開催された日本建築学会大会において、支部提案により、研究協議会「未来をささえる環境」を企画運営した。建築雑誌2005年2月号に開催結果を報告している。2004年11月と2005年1月に札幌市と旭川市において、一般市民向けセミナー「北海道の住宅における温暖化対策」を灯油有効利用研究会と共催で実施した。参加者はそれぞれ、80名、50名で、住宅の省エネルギーのあり方について活発な議論があった。講演者および司会者として、福島明主査、鈴木憲三委員と藤原陽三委員が出席した。2005年度の特定課題の申請内容を検討し、「中高層マンションの外断熱改修委員会」を北方系住宅専門委員会と共同で申請した。2005年3月16日、国内で始めて実施された民間高層分譲マンションの外断熱改修事例「大通りハイツ」の見学会を、環境工学専門委員会と北方系住宅専門委員会の委員対象に実施した。

建築計画専門委員会（主査：門谷 眞一郎君 委員数 21 名 委員会開催数 4 回）

2003年度に引き続き、Webサーチを中心に「特色ある住民参加型の建築計画事例の発掘」をテーマに委員会活動を展開してきた。2004年度当初の計画に沿って、2002年度及び2003年度調査に基づき、道東の東藻琴村を一つの調査ポイントに計画事例調査を継続している。なお、2004年度支部巡回講演会のテーマとして掲げた「一枚のCD-ROMとUSBメモリーでつくる建築計画・設計の自習環境」に名寄光凌高等学校より指名があり、2004年12月15日(水)、主査(門谷)が講演、聴講者、生徒48名、教員7名であった。

都市計画専門委員会（主査：瀬戸口 剛君 委員数 15 名 委員会開催数 4 回）

都市計画委員会ではわが国の地方都市で大きな課題となっている、コンパクトシティとまちなか居住に関する研究会やシンポジウムを一貫して続けている。2004年度は、都市計画委員会が中心となって進めている都市計画の職能のあり方を中心とした研究会「まちづくりプラットフォーム」を継続した。また、本部の「まちづくり支援会議」(委員長：佐藤滋副会長)とともに「まちづくりセミナー」を行い、全国で最も多い60名の参加者を集め、北海道内での都市計画に関する関心の高さを示している。さらに、外部講師(中出文平君：長岡科学技術大学教授)を招いてコンパクトシティ研究会を行い約50名の専門家の参加があり、これには委員のみでなく建築学会会員外も参加している。地域での活動も積極的に進めており、函館では「ハコダテまちなかオープンスクール」を主催し、函館市民および全国の都市計画研究者を合わせて約100名の参加を得て好評を得ている。

歴史意匠専門委員会（主査：羽深 久夫君 委員数 20 名 委員会開催数 5 回）

2004年度も、道内各地における歴史的建造物の現状把握と発掘、および保存・活用に関する情報交換を積極的に行い、社会や住民へ広く貢献することを目的に活動を行った。7月の北海道支部研究発表会の特別企画「上遠野徹の住宅-北海道における住宅史的意義と住宅設計の展開にむけて-」に協力した。8月の大会(北海道)では、建築歴史・意匠部門の研究協議会、研究懇談会、パネルディスカッション、懇親会、民家・近代建築見学会を主催し、北海道の歴史的建築図面展

を共催した。建築文化週間には見学会「日本最北の歴史的建造物とまちづくり-建築・景観発見の旅-」を稚内市と北海道建築士会宗谷支部の協力のもと10月2日(土)に二部構成で行い、延べ83名の参加を得た。道内工業高校巡回講演会に委員を派遣した。委託研究は、石狩市の「石狩市指定有形文化財旧長野商店腐朽度調査」があり、腐朽度調査と復原の基本方針の策定、復原工事費概算を行い、『石狩市指定文化財旧長野商店腐朽度調査報告書』としてまとめた。2ヶ年計画の特定課題研究委員会として「北海道の歴史的建造物における和風意匠の展開過程」の研究調査を行った。本委員会の歴史的建築リスト整備活用小委員会が進めている歴史的建造物のデータベース作成における北海道分を継続して作成した。2004年度より3ヶ年計画で行われる文化庁・北海道教育委員会の「北海道近代和風建築総合調査」に協力した。

北方系住宅専門委員会 (主査：絵内 正道君 委員数 23 名 委員会開催数 5 回)

北海道支部学術委員会を通じ本専門委員会が支部企画として申請した研究集会テーマ「社会資産としての住居の育成」が建築計画・環境工学・地球環境部門のPDとして開催された。学会員ばかりでなく、広く市民の参画を呼びかけて充実した議論の場となることを計画し、初期の目的が達成された。

都市防災専門委員会 (主査：岡田 成幸君(9月30日まで)、南 慎一君(10月1日以降) 委員数 22 名 委員会開催数 1 回 通信委員会 4 回、WG3 回)

建築学会大会記念行事 in 釧路「ささえる - まちの安全 (Disaster Imagination Game)」の企画、運営を行った。また大会に併せて地盤震動小委員会地域交流会及び災害インターネットWGも開催し、全国支部との連携を強めた。

本年度中に発生した災害対応については、台風18号被害状況資料及び構造専門委員会による被害状況調査結果の当委員会HPへの掲載、留萌支庁南部地震の初動調査、新潟県中越地震及びスマトラ島沖津波災害調査情報の支部関係者への配信等を行い、災害調査活動の連携体制の整備を図った。また、支部研究助成委員会「有珠山防災まちづくり計画研究委員会」の活動支援を行った。

2.3 特定課題研究委員会の実施

(2003年度より)

鉄骨軸組ブレース被害調査研究委員会(主査：苫米地 司君 委員数 4 名 委員会開催数 3 回)

本研究では、軸組ブレースの変形被害の実態と積雪沈降荷重との関連の把握し、ガセットプレートの外変形防止設計法の確立を目的としている。昨年度は、旭川市、石狩市、倶知安町、ニセコ町、蘭越町に建設されている体育館、倉庫の13施設を対象に、外壁の外側に配置された軸組ブレースの積雪被害に関する実態調査を実施した。その結果、多くの建物でブレースの変形や破損が確認された。これらの測定結果と積雪深との関係を検討し、ブレースに作用する積雪沈降荷重を構造解析により推定した。この結果に基づいて、2004年2月～4月、2005年2月～3月の間、人為的に雪に埋没させた実大の屋外試験体を対象に、積雪状況の変化とブレースのひずみとの関係を連続的に測定した。これらの研究成果は、変形した軸組ブレースの補修が促進されるような啓蒙活動に活用したいと考えている。

委員会活動の成果報告

1)田沼吉伸君, 苫米地司君: 外壁の外側に設置された軸組ブレースの多雪地域における設計
建築鋼構造研究フォーラム梗概集, pp.1-4, 2005.3

都市・建築の安全性評価研究委員会(主査：羽山 広文君 委員数 6 名 委員会開催数 3 回)

住宅において、心疾患および脳血管疾患の発症は浴室で多くみられ、その数は冬期に顕著となっているが、その実態は明らかとなっていない。本研究では、自治体が保有する救急搬送データの記録を入手・分析し、都市や建築に関わる傷病の発生個所、発生時期・時間、その種類、容態の程度などを調査分析し、傷病の発生と住環境の関係を明らかにした。また、これらの結果を用い、安全と健康を配慮した都市・建築の環境計画の提案をした。

- 1) 救急搬送データを収集し、各自治体のデータ構造の比較
- 2) 各地域の外気温度、天候などの気象データの収集と分析
- 3) 入浴死に着目し各主要因の分析・評価
- 4) 浴室・脱衣室および浴槽内の温度を実測調査し、その特性の分析・評価
- 5) 安全と健康を配慮した建築計画の提案

(2004 年度より)

北海道近代和風建築調査研究委員会（主査：羽深 久夫君 委員数：20 名 委員会開催数：3 回）

建築歴史・意匠本委員会は、1995 年の神戸大震災を教訓として歴史的建造物リストの DB 化をめざし「歴史的建築リスト整備活用小委員会」を発足させ整備に努めているが、北海道支部歴史意匠専門委員会としても、北海道における歴史的建造物の遺構確認をはじめ、地域住民や地方公共団体と連携して保存活用を図るための基本台帳整備と、それに基づく北海道の近代建築における和風意匠の展開過程を視点とする調査研究が必要である。2004 年度より 3 ケ年計画で行われる文化庁・北海道教育委員会の「北海道近代和風建築総合調査」と連携しながら、道内 14 支庁管内の歴史的建造物の把握を行った。

旧軍施設委員会（主査：川島 洋一君 委員数：11 名 委員会開催数 6 回）

当委員会の目的は明治後期から北方防備として旭川等に設営された第 7 師団が国費を投じて多くの施設を建設したが、その多くは解体されている。しかし現存建物も各地に点在している事かこれらの建物の概要技術意匠等を明らかにし、北海道の近代建築史の一側面を明らかにする事である。

2 年間の初年度として本年度は、これまでの研究で明らかになった十勝釧路の太平洋沿岸に点在する鉄筋コンクリート造トーチカを対象として当時のコンクリート分析を行い、また旭川に現存する鉄骨造施設の調査分析、2 年目は組積造施設も明らかにし解体された施設を含めて考察し、トーチカについては構造材料等への考察を行う。

本年度の成果はトーチカについてはコンクリート - トの供試体取り出しが現地の気象条件によって出来ず本年春に延期されたが、RC 造火薬庫一棟実測調査(襟裳)と新しいトーチカ(大樹)を発見して記録実施、旭川での鉄骨造旧覆馬場一棟の実測調査を終え、これらの成果への分析考察を実施。本年の支部研究発表会で、これらの成果を公表する。

2.4 本部からの支部助成金による研究委員会の実施

(2003 年度より)

有珠山防災まちづくり計画研究委員会（主査：岡田 成幸君 委員数 8 名 委員会開催数 3 回）

2000 年 3 月の有珠山噴火後に北海道及び有珠山周辺市町では、長期的なまちづくりを進めるために土地利用計画にもとづく住宅移転支援策の方針が打ち出された。本研究は、有珠山周辺地域の土地利用計画手法として住宅の移転策という新たな防災対策手法の有効性や防災まちづくり計画のあり方について考察を行うことを目的とする。

このため、2000 年有珠山噴火による建物被害調査データをもとに被害分布及び被害要因分析を行った。次に、住宅移転支援策の検討過程の分析及び施設移転実態調査を行った。さらに、有珠山周辺地域の住民意向調査から災害危険性の認識、建物対策の考え方、定住意識を把握した。これらの結果を基に、土地利用ゾーニングに基づく防災まちづくり計画に係る課題を明らかにした。

成果の発表

- ・戸松誠君、南慎一君：「2000 年有珠山噴火災害による建築被害要因の分析」、日本建築学会総合論文誌第二号、pp.67-70、2004
- ・南慎一君、竹内慎一君、戸松誠君：「有珠山周辺地域における土地利用ゾーニングに基づく建物移転について」、日本建築学会大会学術講演梗概集<都市計画>、pp.355-356、2004

3. 委託調査研究の受託

契約年月日	委託調査研究名	担当委員会（代表者）	委託者
2004.7.5	指定文化財旧長野商店腐朽度調査業務委託	歴史意匠専門委員会 （主査 羽深久夫君）	石狩市

受託の概要

（1）指定文化財旧長野商店腐朽度調査業務委託（受託金額：2,730,000 円）

石狩市の市指定文化財旧長野商店の腐朽度調査と移築工事概要設計および費用の積算をし報告した。

4. 支部研究発表会の実施（主査：角 幸博君 委員数17名 委員会開催数 6回）

研究報告集 No.77(収録数:132 編)を作成し、第 77 回支部研究発表会を以下のように開催した。

日時：2004 年 7 月 3 日（土）

場所：札幌市立高等専門学校

特別企画：「上遠野徹の住宅 - 北海道における住宅史的意義と住宅設計の展開に向けて - 」

挨拶：城 攻君

趣旨説明：羽深久夫君

基調講演：「自邸を語る」上遠野徹君

講演：「JIA25 年賞における意義」大宇根弘司君

「DOCOMOMO.JAPAN100 における意義」兼松紘一郎君

「北海道の建築家の系譜における意義」角 幸博君

総括：奥山健二君

司会：八代克彦君

5. 表彰

5.1 北海道建築賞

（1）北海道建築賞委員会の活動（主査：大矢 二郎君 委員 7 名 委員会開催数 6 回（うち現地審査 3 回））

本委員会は 1975 年、北海道支部に表彰制度が設けられて以来、道内に建設された建築（アーバン・デザイン等の領域も含む）の中から本賞に相応しい作品を選考してきているが、今回は丁度 30 回目となる。選考の基準としては、作品が有する「先進性」、「規範性」および「洗練度」の 3 つを掲げている。2004 年度の審査対象は建築賞応募作品全 7 点、及び支部主催建築作品発表会における発表作品の中から審査委員が推薦した 11 点、計 18 点とした。書類審査により選考された 4 点について現地審査を行い、最終審査会で受賞作の選考を厳正かつ慎重に行った結果、北海道建築賞（本賞）は「該当なし」、奨励賞に「伊達の援護寮」（藤本壮介建築設計事務所）という結論を得た。選考の経緯および作品講評はリーフレットにまとめ広く公表する。

審査員：

主 査：大矢 二郎君

委 員：伊藤 大介君 内田 光彦君 小篠 隆生君 鈴木 敏司君 前川 公美夫君
山田 深君

(2) 受賞者
北海道建築賞

< 該当作品なし >

北海道建築奨励賞

藤本 壮介君 (藤本壮介建築設計事務所)
作品名 「伊達の援護寮」の設計

(3) 審査経緯

2005年1月25日、札幌市内で開催された第1回審査会で、本年度の審査対象作品を、建築賞応募全作品7点、および支部主催「第24回北海道建築作品発表会」の作品から委員により推薦された11点を加えた計18点とすることを確認し、第1次書類選考を行った。

この段階で、少なくとも1名の委員から選定候補として推された作品は以下の12点であった。

CELLS HOUSE (大河内学君、郷田桃代君 / インタースペース・アーキテクト)、 風の輪 (五十嵐淳君 / 五十嵐淳建築設計)、 トラス下の矩形 (五十嵐淳君 / 同)、 空のヴォイド (五十嵐淳君 / 同)、 伊達の援護寮 (藤本壮介君 / 藤本壮介建築設計事務所)、 札幌市立資生館小学校・保育園・子育て支援センター (アトリエブク)、 剣淵町 絵本の館 (井端明男君 / アトリエアク)、 ニセコ本通 A 団地 (井端明男君 / 同)、 北海道日本ハムファイターズ札幌屋内練習場・合宿所 (川野久雄君 / 大成建設設計本部)、 札幌町食品加工研修センター (アトリエブク)、 小集落のり・デザイン：第 1 期 (小篠隆生君 / 北海道大学小林研究室 + アトリエアク)、 ホテル エルム サッポロ (後藤博宗君 / 北海道日建設計) < 以上、順不同 >

今回の審査では、書類選考の段階で作品数を4~5点に絞り込み(昨年は10点) 現地審査には原則として全委員が臨む(昨年までは3名以上の委員)という方針のもとに選考作業を進め、その結果、現地審査を含む第2次審査対象作品として、少なくとも3名以上の委員から推薦を受けた以下の4点が選出された。(なお、従前通り選考の全過程において、審査委員と何らかの関わりがある作品を審査する場合に当該審査委員は選考に加わらないというルールを遵守した)

風の輪 (五十嵐淳君 / 五十嵐淳建築設計)、 トラス下の矩形 (五十嵐淳君 / 五十嵐淳建築設計)、 伊達の援護寮 (藤本壮介君 / 藤本壮介建築設計事務所)、 剣淵町 絵本の館 (井端明男君 / 株アトリエアク) < 以上、順不同 >

その後、2005年3月31日の最終審査会までに上記作品の現地審査が行われた。委員会が設定した審査日程に都合がつかない委員も、可能な限り別途、現地で作品を見ておくこととした。

さて、最終審査会で最も多くの支持を集めた作品は「伊達の援護寮」であった。これは、回復期にある精神障害者の社会復帰をサポートするための施設で、最大20名が起居する個室と共有空間を、管理部門がさりげなく支えている。敷地は遥かに太平洋を望む丘の上にあり、作者は北海道の中では比較的穏やかな気候に恵まれた地域の特性を活かすべく様々な工夫を凝らしている。基本となる5.4m角の空間単位を、隅部で微妙な角度を持たせて繋ぎながら全体を構成する平面計画が、「家のような落ち着いたスケールと都市的な多様性」の両立を図るうえで見事に生かされている。変化のある屋根の連なりが伝統的な小集落を思わせる外観と、天井を低く抑えた内部空間との間に齟齬あるいは対立を見る意見もあったが、ここでは一方の視点で全てを律するよりは、むしろ複眼的な見方を直截に表現する作者の柔軟な考え方を支持すべきだろう。一定の規範に則った空間構成や、黒と白を主調とする色彩計画に、作者のストイックな形式性が感じられ、その点を「冷たい」と評する委員や、小屋裏換気が十分でないことなどを危惧する意見もあったが、寒冷地の常套句の形態言語に拘らない軽快なスタンスのもとで建築の可能性にチャレンジした作者の清新な感性と明快な論理を高く評価する意見が多数を占めた。この施設で営まれる日常の生活が、居住者の精神を癒し、社会に復帰する意欲を取り戻す上で有効だとすれば、その中で「空間の力」が寄与する部分も小さくないと思われる。ただ、技術的な部分など、俄には評価しにくい部分もあり、まだ若い作者の今後の展開を期待して、今回は北海道建築奨励賞を贈ることとした。

「剣淵町 絵本の館」は道北の町の市街地に建つ小図書館である。楕円形の中庭を囲んで多様な形態や構造の空間が並び、回廊を巡るシークエンスは変化に富んでいて楽しい。この建築が醸し出す一種ワクワクする感覚は、利用者の多くが子供であることを考えると一層相応しいものに思える。15年以上にわたり町が進めてきた「絵本の里づくり」の拠点施設として、町民のみならず来訪する多くの人々に親しまれている事実から、この施設が目論見通りの機能を発揮していることも分かる。総じて水準の高い優れた建築であることは大方の認めるところで、受賞作に推す委員もあったが、設計者は1995年度に北海道建築賞を受賞した経緯もあることから、あえて表彰を重ねることに慎重な意見が大勢を占め、今回の表彰は見送られることとなった。

「風の輪」はサロマ湖に近い常呂町の田園地帯に建つ、里子と里親が共に住むための施設である。4.55m スパンの木製集成梁を長さ約43m にわたって並べた細長いワンルームの中で、床レベルの変化や柱、筋違等の配置により空間の分節を図り、生活するための場所を獲得している。同一部材の反復使用を徹底したことが、結果的にニュートラルな空間創出を可能とただけでなく、基礎底を地盤面から1200mm以上掘り下げなければならない凍結深度の条件を積極的に活かして半地下の生活空間を生み出すなど、地域に根を下ろして活動する作者ならではの工夫が随所に見られる。

同じ作者による「トラス下の矩形」も、佐呂間町の市街地に建つワンルームタイプの木造平屋建て住宅である。一辺約9mの正方形平面に、この地域では農業用施設に使われる大スパンの既成木造トラスを架けることによりベースとなる大きな無柱空間を創り、床のレベル差や適宜配置された造作家具によって、若い夫婦と二人の子供が生活する場所を創出している。

この2作品に共通するのは、ユニヴァーサルな大空間の中に主として壁以外の要素を用いて「固有の場所」を形成して行く設計手法である。いずれも、既存の住居型式に拘らない自由な発想がフレキシブルな内部空間を生み、そこで営まれる生活に生気を吹き込んでいる。

地域を拠点に、地域に相応しい生活空間を模索する作者の姿勢には多くの委員が共感を寄せたが、この作者も1996年度に「白い箱(BOX)の集合体」で北海道建築奨励賞を受賞していることから、慎重な審議の結果、今回の表彰は見送ることとなった。

(文責：大矢 二郎君)

(4) 審査講評

北海道建築奨励賞 「伊達の援護寮」

噴火湾を見下ろすすなだらかな広い斜面に、様々な家々が寄り添って形成された山岳集落か何かのように建っている。その建物の表情は、見る方向によって様々に移り変わり、決して大きくない施設ではあるものの、一見して全体像を把握することは難しい。また外部とは対照的に真白い内部へと入ってみれば、動線に沿って歩くにつれ、風景が右へ左へと断片的に様々な角度で現れ、そこに一貫したストラクチャは見出し難く、方向を見失いそうになる程である。

精神障害者が社会へ復帰することをサポートする施設という容易ではないプログラムであり、空間的な体験としても良い意味での複雑さを感じさせるが、ここで為されている建築的操作は、基本的に極めてシンプルなものである。5.4m角のポリウムを、角の一点で接しながら連結していくこと。この部分と部分を接続していくルール(=関係性)のみがまず規定されているのであり、そこに斜面の勾配や屋根勾配、高さや角度の変化などが加わることによって、結果として心地よいスケールの空間と場とが多様に創り出されている。

近年の建築が、主に都市や敷地条件など建築の「外部」にその設計の論理を求める傾向にある中で、このようにまず建築の形式性を吟味することを出発点とするプロセスは、逆に新鮮でもあり、作者独自のスタンスを感じ取ることができる。多くの建築家によって建築の自律的な形式性が主題とされたことはかつてもあったが、それらは主に建築の論理を飛躍的に再構築するためのものであり、いわば抽象的な水準に止まるものであったように思われる。しかしこの作品においては、作者の眼はおそらく具体性へと向けられている。形式的操作を前提としながらも、それによって実際にどのような空間が立ち現れ関係性がつくられるのか、いわば具体的な可能性を最大限に引き出すための、まさにルールのようなものとしてあるかに見える。例えば先に述べた部分と部分の関係から生まれる空間と場の多様性、5.4m角のポリウムの隙間につくり出されるスケールの良いアルコーヴのような場、様々な方向に開ける風景など、ここでの空間的特質のその全て

が、前提となる形式から導き出されているとあってよい。

審査においては、施設の性格上、テクスチャの平板さや外部空間との動線的な接続に対する疑問なども出されたが、ヒエラルキカルではない空間・関係性をつくり出すための作者の一貫した姿勢や、手法・プロセスに対する意識の高さは、作品自体の質と共に、今後の可能性も含めて高く評価できるものだろう。一方、ここでの作者の方法論が、現実に建築の「外部」に広がって存在する具体性との関係にまで敷衍できるかどうか、その点は実に興味深いところでもある。

(文責：山田 深君)

5.2 卒業設計優秀作品(日本建築学会北海道支部賞)

(1) 卒業設計優秀作品審査委員会(主査：渡邊 広明君 委員数6名 委員会開催数1回)

2004年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の分野別に、各委員選定の候補作品について意見交換を行い、審査方針を協議するとともに、候補作品各々について合同において再審査し、合議の上、各賞を選出した。

また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評者の担当を決定した。

審査員：

主査：渡邊 広明君

委員：加藤 誠君 上遠野 克君 小西 仁彦君 斉藤 徹君 中山 眞琴君

(2) 受賞者

大学の部 (応募作品数12点)

- ・金賞 東海林 孝男君：北海道大学工学部建築都市学科
作品名 消失 - 忘れられた都市の記憶 -
- ・銀賞 西川 裕紀君：室蘭工業大学建設システム工学科
作品名 界隈の庭
- ・銅賞 細谷地 舞佳君：北海道大学工学部建築都市学科
作品名 澗 tanimizu

短大・高専・専門学校の部 (応募作品数10点)

- ・金賞 村元 由紀子君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科
作品名 CROISER le HOTEL - 交錯する現在と過去の間 -
- ・銀賞 中尾 宏樹君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科
作品名 FLOWING SPACE city planning around a kotoni station
- ・銅賞 珍田 恵一郎君：札幌建築デザイン専門学校建築工学科
作品名 “Stretched Architecture” - THE SAPPORO CHUO LIBRARY
- ・銅賞 二本柳 望君：釧路工業高等専門学校建築学科
作品名 CUBE BOX ~リバーサイドにおけるホテル計画

工業高校の部 (応募作品数9点)

- ・金賞 橋場 浩二君：北海道札幌工業高等学校建築科
作品名 文化センター
- ・銀賞 渡辺 翔太郎君：北海道帯広工業高等学校建築科
麻生 合歓君
作品名 十勝が丘美術館計画案
- ・銅賞 佐藤 朱君：北海道函館工業高等学校建築科
作品名 躑躅 ~ tutuji ~
- ・銅賞 西村 清志君：北海道釧路工業高等学校建築科
作品名 ~ The Natural Hotel ~

(3) 審査講評

大学の部

金賞・東海林君

長い間、建築という産物は時には人々を守り不用になれば破壊され、社会のニーズに、ある意味で答えてきた。

しかし、その死生自体が境位にある。経済との連関により、社会の潮位により建築を不用物に変値させてしまう。

この「消失」という作品はある種の社会学的な抽象作品でもある。水没した炭坑都市とダムとの水位による変数との相対性。人の流れの変位とマチと現在の地上とを結ぶ形態や用途が多変する装置との相対性。全てが論理的に展開されている。決して環境を無理矢理外界と遮断し、建築を弄んだものではないことは理解できる。

無限と有限の狭間に漂流するこれらの粒子は記憶と共に生き続けるであろう。想像すればする程になんと美しいことだろうか。

これは唯一建築を残存させる未来とを結ぶ索条なのかもしれない。

(文責：中山 眞琴君)

銀賞・西川君

日本の典型的な住宅街の一街区を計画地として現行の容積をそのままにパブリックとプライベートの2種のコモンスペースを発生させながら、既存の住宅地での新しいコミュニティを誘発させるべくプログラムを構築したものである。個の敷地と個の住宅では不可能な計画を街区全体で計画することによりこの案を可能にしたものであり、新鮮味を感じさせる。しかし、コモンスペースと通路との関係にメリハリがなく、また個の住居計画の部分は検討の余地を感じるが、計画全体の着眼、構想力は銀賞に相応しい。

(文責：小西 彦仁君)

銅賞・細谷地君

コンセプト、建築形態、環境との関係、変位、地域との呼応。どれをとっても申し分のないプレゼンテーションである。だがしかし、その欠点のなさが審査員一同気になったのであった。その多面的な解法や、環境との結節点の処理や導入は見事ではあるが、やや不動産的なまとまり方が大人びていて、そつがないが、やはり、私も気になった。

とは言え、水と緑を引き込む事、水位の変化によって路地やステージがあらわれる事、二層から三層程度のボリュームに押さえた事、きちっと小樽のイメージの軟石等を使用している事、house、studio、shop、cafe、gallery、など内容に無理がないなど、非常に具体的で人間的である。最近のコンピューター建築にはない品性があり、建築の基本を忘れてないところが、称讃に値する。

(文責：中山 眞琴君)

短大・高専・専門学校の部

金賞・村元君

中・高層化されつつある札幌の下町に、既存の倉を再利用したレストラン棟、宿泊棟、管理棟の3棟を、路地と中庭とシンボルツリー等を仕掛化し、歴史と記憶とを内包させながら、良質な外部・内部空間を作りだしている、デザインセンスの優れた作品である。

プログラムの正確さはもとより、プレゼンテーションに多用された素晴らしいドローイング、スケッチが、外部、内部、中間域、素材を含めたテイストをととてもよく表現している。

エレベーター・シャフトは中庭のアイストップとしてではなく、中景の構成要素としてシンボリックに使用した方が、インティメイトな路地・中庭空間と、都市的なスケールとの対比が生かされた様に思われる。

光・影はもちろん色、音、風、香りまで感じさせる作品である。

(文責：上遠野 克君)

銀賞・中尾君

琴似駅前に計画された3棟のコンプレックスである。建物単体の計画ではなく、アイレベルによる視線の抜け、アイストップのデザインなどの検討を積み上げながらコンプレックスの配置とボリュームを組み立ており、その結果リアリティーのある全体計画を獲得している。また、内部のアクティビティが開口部を通して街路に染み出していくような、楽しい雰囲気が伝わってくる。しかし個々の建物における表現主義的な構成は、構造的合理性を欠いている。外壁面を構造体から離すことで自由度を持たせ、街路に対する壁と開口部の量についての研究を深めたほうが良かったのではないか。

(文責：加藤 誠君)

銅賞・珍田君

札幌の中核となる図書館の計画であり、道庁周辺の2街区が敷地として選ばれている。弾性のある直方体の、両端を引き伸ばすことで得られた中央ブリッジに特徴を持たせ、建築のシンボル性を獲得することができた。この手法は、コンテクストを読み込みながら建築をまちなじませていく穏やかな計画手法とは違い、むしろ周囲とのコントラストや矛盾を際立たせることでまちに活力を与えていくのが目的であろう。したがって、道庁を含めた既存建物との対比、札幌特有の格子状街路における異物の姿、といったものを表現することで、周辺に与えた影響を明らかにしてほしかった。また、建物の外壁ラインに押し込められた内部レイアウトは、アクティビティを不自由にしていないかといった疑問が残る。

(文責：加藤 誠君)

銅賞・二本柳君

十勝川の河岸を計画地として選定した、ビジターセンターとロックキューブと名づけられたルーム群から構成されるホテル計画。玉石の積み上げの外装表現が意図することの全てを特徴づける。現地での採取も可能であろう素材によって、立地性と建築の性格付けを明確にするものであり、評価される。ビジターセンターにおける機能構成やロックキューブにおけるルームタイプの多彩な展開など、計画の魅力づけもうかがえる。四季を感じるホテルをテーマにするが、プレゼンテーションにおける色づかいや表現が、意図した心地よさをより表現するものであって欲しかった。

(文責：渡邊 広明君)

工業高校の部

金賞・橋場君

大ホールと図書館などの複合施設の提案である。それぞれの機能を主軸のガレリアの両側にブロック配置した、基本に沿った構成である。これによってそれぞれのボリュームの違いを素直に表現でき、外観からもガレリア内部からもそれぞれの機能を認識しやすいように構成している点が特筆される。ガレリアのイメージはあくまで透明で、ふらっと立ち寄れる親近感も意図されている。CG表現も試み意欲的である。

(文責：齊藤 徹君)

銀賞・渡辺君・麻生君

通路型、テント型、半地下型の3つの展示空間をなだらかな緑地に位置付けた提案である。残念なことに配置図がなく、自然環境と一体化した全体の景観構成の提案が表現されていないが、通路型の展示空間は内外の展示を楽しむことができ、テント型はそれ自体がオブジェクトで外部空間に彩りを与えている。また、半地下型は室温の安定にも寄与し、その起伏のある天井に十勝の山並みを表現するなど、建築デザインの力量を評価したい。

(文責：齊藤 徹君)

銅賞・佐藤君

函館の市花である躑躅をモチーフにしたこの建物は、5板の花びらをゾーニングに用いながら計画された浴場である。

ストレートな表現で明快であり、高校生らしさを感じさせる。ひとつアドバイスをさせて頂くと平面は花びらを読みとれるが、立面においてそれを感じさせるやわらかさがあった。

しかし、図面のレイアウトやドローイングも丁寧なものであり、今後の成長に期待したい。
(文責：小西 彦仁君)

銅賞・西村君

釧路市街地内に建つ高層ホテル計画。建築を特徴づける要素として光、風、水を導入し、心地よさを実現することをねらいとしている。地上階、ルーム階、最上階における明確な機能配置と特徴ある外観構成を行い、印象を高めるものとなっている。アクソメトリックパースでの全体構成は設計者の意図を明確に伝えるものとなっていた。図面構成におけるまとまりある完成度は評価された。ホテルを利用とする人々に提供する空間や時間に対してはより細やかな配慮が求められるし、提案が独りよがりにならないことが大切なことであろう。

(文責：渡邊 広明君)

5.3 優秀学生・生徒(日本建築学会北海道支部賞)

2004年度道内大学・短大・高専・工高優秀学生・生徒として以下の学生・生徒を表彰した。

細川 真代君・笹岡 歩君：北海道大学工学部建築都市学科
山之内直人君・熊木 盛人君：北海学園大学工学部建築学科
高橋 愛枝君・七尾伸太郎君：北海道工業大学建築学科
塚本 健志君・岩田 敏孝君：室蘭工業大学建設システム工学科
中家 美穂君・宮越恵理子君：北海道東海大学芸術工学部建築学科
引地真奈美君・渡邊 詩乃君：道都大学美術学部建築学科
中河信太郎君・古畑 愛恵君：釧路工業高等専門学校建築学科
須貝 暁君・細川明日香君：札幌国際大学短期大学部総合生活学科
鹿嶋 祥君：札幌市立高等専門学校専攻科インダストリアルデザイン専攻
麦島 泰子君：札幌市立高等専門学校インダストリアルデザイン学科
片岡 正敬君：北海道職業能力開発大学校建築技術システム技術科
高根 育子君：北海道職業能力開発大学校建築科
武田 雄太君：北海道立正学園旭川実業高等学校建築科
小山内 聡君：北海道札幌工業高等学校建築科
青木 仁君：北海道札幌工業高等学校定時制建築科
岸本 拓洋君：北海道小樽工業高等学校建築科
相馬ゆかり君：北海道小樽工業高等学校定時制建築科
原田 麻美君：北海道函館工業高等学校建築科
山崎 雅人君：北海道函館工業高等学校定時制建築科
馬場 智也君：北海道旭川工業高等学校建築科
小野 美喜君：北海道旭川工業高等学校定時制建築科
高柳 巧君：北海道苫小牧工業高等学校建築科
湯浅 寧慧君：北海道苫小牧工業高等学校定時制建築科
美濃 孝君：北海道帯広工業高等学校建築科
西村 清志君：北海道釧路工業高等学校建築科
遠藤 広基君：北海道名寄光凌高等学校建築システム科
高橋 厚太君：北海道美唄工業高等学校建築科
瀬戸 達矢君：北海道室蘭工業高等学校建築科
奥村なおみ君：北海道留萌千望高等学校建築科
後藤 謙一君：北海道北見工業高等学校建築科

6．北海道建築作品発表会の実施

(1) 北海道建築作品発表会委員会(主査:小篠 隆生君 委員数3名 実行委員7名 委員会開催数4回(実行委員会1回を含む))

本年度は、懸案である事業費の圧縮をどのように図るのかを最大の目標と掲げた。具体的には、通信費用を圧縮するために、応募案内を支部 HP を使って告知すること、作品集の販売部数を上げることという2つの対策をとった。作品集販促は、発表会自体の議論の活性化というもう1つの目標とも関連し、1)来場者に作品集を買ってもらい、気になる作品の質問募集、2)応募作品に対する均等な発表時間の割り振り、3)集められた質問を基本とした会場と発表者の議論という発表形式の変更に発展した。そのために、発表会自体の長さを例年より1時間長くした。

発表会日程は、学会大会が8月の末に札幌で開催された関係で、すべてのスケジュールを例年より1ヶ月遅らせて12月に発表会を開催したが、応募作品は例年以上の37作品が集った。

実行委員会は、7名の実行委員を加え10名で組織した。発表方式の変更の確認、作品の受付、プログラム編成、プレフォーラムという流れに沿って3回開催した。今回より発表者に確認の上、すべての発表をPowerPoint等によるPCを使ったものとしたのも大きな変更点である。

12月10日に第24回建築作品発表会を北海道立近代美術館講堂で開催、作品集VOL.24を発刊した。作品集の販売部数も例年より100部程度多くすることができた。発表会での議論の記録、発表作品の分析等を含めた活動記録と評論を北海道建築士事務所協会誌「ひろば」12月号に小篠隆生君、また日本建築学会誌「建築雑誌」2005年3月号に五十嵐淳君が執筆した。

(2) 北海道建築作品発表会の開催

第24回北海道建築作品発表会

期日 2004年12月10日

会場 北海道立近代美術館講堂

発表作品数 37題

発表作品に対する発表者と来場者との議論の活性化を目指した事前質問募集、全発表者に対する均等な発表時間の割当を大きな変更点として発表会を行った。今回集った37作品の傾向で特筆されるのは、集合住宅を含めた公共建築が1/3を占めたことである。建築を通じて社会に何を還元していくのかという極めて建築学会としてふさわしいテーマを論じるよい機会として発表会が位置づけられてきている現れであると理解でき、さらなる充実を目指す方向性を再確認した。発表形式の概して好評であり、今後のスタンダードとなりうるものをつかめたのも収穫であった。参加者約500名。「北海道建築作品発表会作品集2004VOL.24」を発刊。

7．特別委員会

7.1 事業主査連絡会(事業系5委員会の主査、活性化委員会事業企画部会担当常議員連絡会開催数1回)

2004年9月に電子メールにて事業系5委員会の各主査に対して、各委員会の活動経過についての報告を求めた。これに各事業系委員会担当常議員の意見を合わせて、各委員会がかかえる懸案・要望事項を洗い出し、2005年2月2日に開催の事業主査連絡会にて、事業の将来に向けての改善方法を議論した。

作品の発表方法、現地での審査方法(時期、審査員数)、公開審査の可能性、作品の募集方法等について具体的な問題点が指摘され、各主査ならびに担当常議員の間で共通の問題意識を形成できたことは有意義であった。また、具体的な改善策も提示されたが、予算、活動時期など、各事業の性格の相違により早急な対応は難しいとの認識から、WGを新たに発足させ支部長にも参加を求め、今後1年程度の時間をかけ改善に向けての議論を重ねていくことになった。

なお、昨年度の総会にて要望のあった優秀卒業設計作品の実物展示に関しては、Webギャラリー方式を導入したばかりであり、当分この方法を継続していくことになった。

7.2 総務委員会(委員長:後藤 康明君 委員数4名 委員会開催数0回 (電子メール会議を1回開催))

北海道支部の毎月の収入・支出内容についての確認、経理執行状況と予算との比較検討、全体の財務管理について主に検討を行い、四半期に一度の頻度で常議員会にて報告を行った。また、次年度の予算案策定について検討した。日本建築家協会北海道支部との合同委員会において、運営上の議題として合同会議室の利用に関する規定を協議した。また、建築関連の情報交換を行うとともに、合同企画についての検討も行いジョイントセミナー(1回:12/3)を実施した。

7.3 活性化委員会

活性化委員会は、支部長を委員長として全常議員から構成され、事業主査連絡委員会・学術委員会・HP管理委員会・総務委員会に専任の委員を選出して、相互の連絡を密に行い、会員へのサービス向上を図った。特に事業主査連絡委員会では作品賞のあり方を検討するWGを、学術委員会では8部門からなる現行専門委員会の再編成を検討するWGを設けて、会員や時代の要求に対応できる活動の見直しを開始した。2004年度は、北海道で開催された全国大会への協力と、CPDプロバイダーとして当会員および他の学協会会員への情報提供を行った。

7.4 ホームページ管理委員会(主査:高橋 章弘君 委員数2名)

本委員会は2001年4月に開設された当支部ホームページの管理することを目的としている。2004年度は、約6500件のアクセスがあり、支部活動の広報に貢献した。また、各委員会活動の内容紹介、講演会や各種募集案内などを10件掲載し、さらに支部研究報告会の申し込み関係書類のホームページからのダウンロード化などを行った。

7.5 2004年度日本建築学会大会(北海道)

2004年度の大会は、統一テーマ「ささえる」の元に北海道大学を主会場とする会員対象の学術講演・研究集会等と、道内3都市(札幌・旭川・釧路)における市民対象のシンポジウムやワークショップ等を8月下旬に開催した。また、昨年試行したCPD登録を正式に運用し、本会員のみならず建設諸団体会員への認定事業として登録を行った。大会2日目に西日本を通過した台風16号が最終日には北海道に上陸したために、数十名以上の参加辞退者を招いた。

(1)大会運営組織

大会委員会

委員長:石山祐二君(前北海道支部長、北海道大学)

顧問:山上徹郎君(北海道建設部)ほか官庁2名。伊藤義郎君(北海道建設業協会)ほか関連団体4名。柴田拓二君(北海道工業大学)ほか元支部長5名。

委員:実行委員長、副委員長、担当常議員、各部長および幹事

大会実行委員会

委員長:城 攻君(北海道支部長、北海道大学)

副委員長:小林英嗣君(北海道大学)、西 安信君(北海道工業大学)、谷 吉雄君(北海学園大学)

担当常議員:石塚 弘君(北海道建設部)

総務部会(13名): 部会長 絵内正道君(北海道大学)

経理部会(9名): 部会長 星野政幸君(北海道工業大学)

行幸部会(17名): 部会長 角 幸博君(北海道大学)

学術会場部会(19名): 部会長 野口孝博君(北海道大学)

懇親部会(5名)：部会長 猪股宣夫君(大成建設)
エージェント(6名)：JR北海道、北海道ジェーアールエージェンシー
学会支部事務局、大会事務局

(2) 大会参加登録者数

参加登録者数(大会総合受付での登録)は全体で 8,965 名になり、この数字は大会史上 1 位であった。その他、一般向け行事への市民の参加も延べ 704 名となり、大会関連全行事の参加者数の延合計は 1 万人を超えた。

(3) 学術講演会

学術講演発表題数は総計 6,514 題(ポスターセッションを含む)となり、大会史上最大となった。全発表会場で定時に調査した参加者数(午前 10 時と午後 2 時の会場在室人数)は 3 日間合計で 14,185 名であった。

(4) 研究集会

開催総主題数 48 題、参加者数合計 4,262 名
種別：(ア)研究協議会：14 主題 1,382 名、(イ)パネルディスカッション：27 題 2,572 名、(ウ)研究懇談会：7 主題 308 名。

(5) 2004 年度日本建築学会設計競技「建築の転生・都市の転生」・公開審査
8 月 29 日北海道大学学術交流会館で開催、参加者 108 名。

(6) 建築作品展

- ・2004 年日本建築学会賞(作品・技術)
- ・2004 年日本建築学会作品選奨
- ・2003 年度日本建築学会設計競技全国入選作品
- ・2004 年日本建築学会技術部門設計競技入選作品
- ・2004 年日本建築学会優秀卒業論文・優秀修士論文
- ・2004 年度支部共通事業全国大学・高専卒業設計展示会
(8 月 29 日～31 日 / 北海道大学学術交流会館)

(7) 記念行事

記念シンポジウム・釧路 「ささえる まちの安全」(8 月 20 日：釧路市まなぼっと幣舞) ワークショップ(コーディネーター / 佐々木貴子君) パネルディスカッション(コーディネーター / 岡田成幸君、パネリスト / 伊東良孝君他 3 名 参加者 92 名)

記念シンポジウム・旭川 「ささえる まちとくらし」(8 月 22 日：旭川市買物公園) パネルディスカッション(パネリスト / 倉田直道君、鈴木俊治君) ワークショップ(コメンテーター / 倉田直道君、ファシリテーター / 鈴木俊治君、田川正毅君 参加者 80 名)

特別シンポジウム・札幌 「21 世紀をささえる大学の姿と環境 大学と都市の連携をデザインする」(8 月 27 日：札幌市共済ホール)(コーディネーター / 小林英嗣君、キーノートスピーチ / ジョセフ・ヒバート君、パネリスト / 高橋潤二郎君他 3 名 参加者 130 名)

記念講演会シンポジウム・札幌 「ささえる 建築の新たな役割と地平を展望する」(8 月 28 日：札幌市共済ホール)(コーディネーター / 小林英嗣君、基調講演 / 榎 文彦君、パネリスト / 上田文雄君他 4 名 参加者 150 名)

技術セミナー・札幌 「ささえる ストック活用の建築技術」(9 月 1 日：北海道大学学術交流会館)(パネリスト / 樫野紀元君他 4 名 参加者 90 名)

連続トーク「ささえる 建築の新たな役割 人・建築・地域」(北海道大学遠友学舎)

- 1) 「地域に貢献する」8 月 29 日 参加者 55 名
- 2) 「市民参加と公共空間」8 月 30 日 参加者 50 名
- 3) 「都市と農村をつなぐアクティビティ」8 月 31 日 参加者 40 名

(8) 大会懇親会

8月29日18:00より札幌市内サッポロビール園で開催。秋山会長、高橋北海道知事(麻田副知事代読) 上田札幌市長(福迫副市長代読)の挨拶、佐伯北海道大学副学長の乾杯、J2サッカーチームのチアリーダー・コンサドルズによるアトラクションが行われた。参加者は563名。

(9) 見学会

9月1日に旧炭鉱地である赤平市、美唄市、三笠市を訪問する近代産業遺産の見学会を開催し、17名の会員参加を得た。

(10) 北海道大学行事

大会メイン会場の北海道大学構内において下記の行事を催した。
北海道の歴史的建築図面展(7月21日~9月5日:北海道大学総合博物館)
モデルバーンの一般公開(8月29日~31日:北海道大学構内)

(11) 関連行事

建築MAPパネル展(8月29日~31日:JR札幌駅西コンコース)
同時に北海道の建築作品を掲載した小冊子を制作して大会参加者全員に配布した。
まちかど建築写真展(8月29日~31日:JR札幌駅西コンコース)
豊平館 小屋裏の公開(8月29日~31日:札幌市中島公園内 参加者180名)
八窓庵 内部の公開(8月29日~31日:札幌市中島公園内 参加者105名)

8 . 講習会・シンポジウム等の開催

8 . 1 講習会

(1) 本部主催講習会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
「まちづくり連続セミナー」	2004.7.2	北海道第二水産ビル	佐藤滋君 他5名	60名
2004年度支部共通事業「建築物荷重指針」改定講習会	2004.9.30	北海道第二水産ビル	石山祐二君 他3名	42名
2004年度支部共通事業「高強度コンクリート施工指針(案)・同解説	2005.2.18	ホテルノースシティ	千歩修君 他2名	61名

(2) 支部委員会主催講習会(セミナー)

なし

8 . 2 講演会

(1) 本部主催講演会

なし

(2) 支部主催講演会

名 称	期 日	会 場	講 師	参加者数
会長支部訪問記念講演会 「緑地回復と都市建築」	2004.5.25	かでの 2.7	秋山 宏君	約 50 名
第 24 回北海道建築作品発表会	2004.12.8	北海道立近代美術館 大講堂	作品数 37 点	約 500 名
建築診断とリフォーム	2004.12.16	北海道釧路工業高校	松井為人君	81 名
建築のかたちを決める要因は何 だろう？	2004.12.22	北海道帯広工業高校	伊藤 寛君	92 名
一枚のCD-ROMとUSBメモ リーでつくる建築計画・設計 の自習環境	2004.12.15	北海道名寄光凌高校	門谷眞一郎 君	54 名

(3) 支部委員会主催講演会

なし

8 . 3 展示会

開催日	名 称	会 場	参加者数
2004.5.19 ～ 5.21 5.28～ 30 8.29～ 31 11.11～ 14	全国大学・高専卒業設計展示会	室蘭工業大学 北海道東海大学 北海道大学 釧路工業高等専門学校	210 名 594 名 1316 名 200 名
2004.6.21 ～ 12.10	道内工高卒業設計優秀作品巡回展	道内工高 13 校	

8 . 4 見学会

開催日	見 学 場 所	解説者	参加者数	主 催
2004.9.1	北海道立北方建築総合研究所施 設見学会	鈴木大隆君	9 名	環境工学専門委員会
2004.10.2	日本最北の歴史的建造物とまち づくり - 建築・景観発見の旅	内山真澄君 他 4 名	83 名	歴史意匠専門委員会
2004.11.11	札幌市厚別清掃工場現場見学会	委員会委員 他 1 名	38 名	構造専門委員会

9. 本部関連事業・その他

9.1 2004年度支部共通事業設計競技の実施

(1) 共通事業設計競技審査委員会(主査:藤島 喬君 委員数5名 委員会開催数1回)

支部審査員:

主査: 藤島 喬君

委員: 川人 洋志君 小西 彦仁君 柳田 良造君 山之内 裕一君

委員会は7月22日、委員全員出席で北海道支部事務所会議室において午後5時より開催した。本年度の設計競技課題は「建築の転生、都市の転生」であり、例年より2作品多い5点の応募があった。近年ほぼ全作品がCAD化され、美しくダイナミックであるが、主題をどう語っているかが読み取りにくい傾向である。審査は前半各委員が作品5点を1時間かけて審査し、後半活発な意見の交換後、各々が厳正な審査の上投票した。その結果、荒廃した空家、空スペースを再生化した「スポンジビルディング」森谷(代表)案、グリッド状に構成された都市に(くさび)を打ち込んだ「Public Wedge」梅津(代表)案の2点を支部入選と決定した。

(文責:藤島 喬君)

(2) 審査講評

「Public Wedge」

大通公園は、明治初期に設けられた防火線として誕生し、以来札幌市民のかけがえのない都市遺産である。公園が重要な街区であり、正方形グリッド街路の基点であるにもかかわらず、孤立し、Public(公共性)が十分に生かされていない。公園と周辺との関係に疑問を感じた作者は、両者の乖離が正方形グリッドに起因すると看破した。提案は、グリッドに違反するWedge(くさび)を打ち込み、新規のベクトルにより連続した空間のヒエラルキーを回復させようという試み。正方形グリッドの開放が、既存の空間概念をどのように転生できるのか、疑問は残るが、ダイナミックに表現された提案である。

(文責:山之内 裕一君)

「スポンジビルディング」

「鉄のまち」室蘭は過疎化が深刻な課題となっており、この提案は街中の廃居を新しいプログラムに変更することによる転生をこころみたものである。街の低密度化をスポンジという概念におきなおし、スポンジは握ることにより新しい空間が出現し、それはいわば空き建物の部分ということだが、そこに樹木や畑をつくることにより、住民のコミュニティを誘発させそれが、街のいたる所で発生することで転生をさせようというものである。この案は古い建物の再利用というものではなく新たに作られた場所に緑と新しい建物が計画されており、それが町内のいたる所につくられているのだが、これ程の数が必要だろうか、むしろコミュニティより分散が気にかかるのと、建物の再利用をして欲しかった。しかしスポンジという見立ては成功している。

(文責:小西 彦仁君)

9.2 作品選集支部選考の実施

(1) 作品選集支部選考部会活動報告(主査:山田 深君 委員数9名 委員会開催数2回)

審査員:

主査: 山田 深君

委員: 小川富之君 及川豊秀君 小田信一君 亀井昭君 佐藤孝君 田川正毅君

塚田哲也君 中山真琴君

本年度に北海道支部に応募された作品数は7であり、前年度と比較してほぼ半減した。部会では、応募書類によって一次選考を行い、5作品を現地審査対象とした。札幌市内は1作品と少なく、道内各地に分散した候補作について、7月下旬から8月上旬にかけて現地審査を行った。第

二次選考では、現地審査の報告をもとに議論を行ったが、今年度は各作品のレベルが拮抗しており、様々な意見が出された。最終的には以下の4作品を支部推薦とし、その全てが本部委員会(9月7日)において、作品選集掲載決定となった。

- ・月寒の家/設計：川人洋志君+菊池規雄君
- ・豊富町立豊富中学校/設計：ドーコン
- ・ザ・ウィンザーホテル洞爺チャペルG-CLEF/設計：アーキテクトファイブ
- ・常呂土佐U邸/設計：五十嵐淳君

(2) 作品選集支部選考の結果

支部応募作品数 7点

支部選考通過作品数 4点(本部採用4点)

作品選集掲載作品

- ・月寒の家
川人 洋志君：北海道工業大学
菊池 規雄君：ワンダーアーキ
- ・豊富町立豊富中学校
齊藤 文彦君：ドーコン
小倉 寛征君：ドーコン
- ・ザ・ウィンザーホテル洞爺チャペルG-CLEF
川村 純一君：アーキテクトファイブ
堀越 英嗣君：アーキテクトファイブ
松岡拓公雄君：アーキテクトファイブ
城戸崎博孝君：アーキテクトファイブ
- ・常呂土佐U邸
五十嵐 淳君：五十嵐淳建築設計

9.3 建築文化週間

(1) 見学会「日本最北の歴史的建造物とまちづくり 建築・景観発見の旅」

共催 稚内市、稚内市教育委員会、北海道建築士会宗谷支部

日時 2004年10月2日(土)9:00~17:00

第一部 市内バス見学会 - 歴史的建造物と景観めぐり

厳島神社(宗谷・道指定文化財)、旧海軍望楼(宗谷岬・市指定文化財)、旧海軍幕別通信施設(旧軍施設・恵北)、北防波堤ドーム(北海道遺産)、宗谷丘陵(周氷河地形・北海道遺産)、中心市街地(旧市街地南濱通り)、風力発電装置と丘陵景観、漁家の街並みなどの見学。

共催挨拶 横田耕一君(稚内市長)

講師 内山真澄君(稚内市教育委員会 学芸員)

駒木定正君(北海道支部歴史意匠専門委員・北海道職業能力開発大助教授)

中渡憲彦君(北海道支部歴史意匠専門委員・北海道職業能力開発大助教授)

田中裕也君(建築家・スペイン在住(稚内市出身))

第二部 歴史的建造物と稚内のまちづくり

煉瓦建築物の再生を中心に講演形式で開催。

講師 水野信太郎君(北海道支部歴史意匠専門委員・北海道浅井学園大学教授)

参加者 83名(第一部 40名、第二部 43名)

10 . 建築関連団体との活動

10 . 1 AIJ-JIA 合同委員会（構成委員数(AIJ)：常任6名、非常任1名 開催数：6回）

本委員会は合同事務所の運営に関わる運営委員会と合同の企画等を協議する企画委員会に分けて行っていたが、本年度は両者を同時に協議した。協議内容としては、合同会議室の利用規定を作成した他、ジョイントセミナーの企画、北海道建築設計会議の活動、関連団体を含んだCPDの認定についてである。特に、AIJ大会が北海道で行われたことから、大会関連行事に対するJIAのCPD認定について提案があり、AIJ本部と協議を行った結果、大会参加の他、各種の大会行事がJIAおよび建築士会のCPD行事と認定されたことは大きな成果と考える。

第8回 AIJ-JIA ジョイントセミナー 2004年12月3日

講師：濱田靖弘君(北海道大学) 「寒冷都市次世代エネルギーシステムに関する研究」

参加者 25名

10 . 2 北海道建築設計会議（幹事会 12回）

日本建築学会北海道支部、北海道建築設計事務所協会、日本建築家協会北海道支部、北海道建築士会、北海道まちづくり促進協会、北海道設備設計事務所協会、日本構造技術者協会北海道支部、日本積算協会北海道支部の8団体に、昨年9月より建築設備技術者協会が新たに加入し9団体となった。本会からは、向山松秀君と南出孝一君の2名を参加させた。また、CPD（継続能力開発）の共同化等について引き続き討議を重ねた。日本建築学会全国大会（北海道）の開催期間中には、赤レンガ建築展を実施し、北海道の建築関連の受賞作品を展示した。会期中には1,611名の入場を得ることができた。

11 . 共催・後援（2004年度内に申請のあったもの）

期 日	名 称	会 場	主 催
後援 2004.6.4	三沢浩講演会「F・Lライトの有機的建築と造形変化」	かでの2 . 7	北海道新建築家技術者集団 北海道支部
2004.7.25 ~8.29	「イサム・ノグチ、ランドスケープの旅 ポーリングン基金による遺跡の探訪展	モエレ沼公園内ガラスのピラミッド	モエレ沼公園の活用を考える会、 (財)札幌市公園緑化協会 札幌市
2004.9.30	第29回「北の住まい」住宅設計コンペ		(社)北海道建築設計事務所協会
2004.9.11 ~12	「北の家づくりフェア」	サッポロファクトリー	北海道
2004.11.14	第15回旭川建築作品発表会	北海道立北方建築総合研究所	旭川まちなみデザイン推進委員会
2004.10.22	北海道大学北ユーラシア・北太平洋地域研究センターシンポジウム	道民活動センター かでの2.7	北大北ユーラシア・北太平洋地域研究センター
2005.5.13	2005年建築とまちづくりセミナー in 札幌	北海道大学学术交流会館	北海道新建築家技術者集団 北海道支部
2004.11.15	灯油有効利用セミナー～北海道の住宅における温暖化対策～	札幌エルプラザ	北海道灯油有効利用研究会

2005.3.8 ~ 17	建築士のための指定講習	道民活動センター 旭川市民会館 オホーツク・文化交流 センター ソネビルイベントホ ール 室蘭市市民会館 上磯町総合文化セン ター	(社)北海道建築士会
2005.6.18 ~ 7.10	竹山実展「YOU & ME」	札幌芸術の森	竹山実展実行委員会 (財)札幌市教育文化財団
2005.5.13	再生骨材コンクリートの実 用化への課題と展望 リサ イクル研究委員会成果報告 会	北海道大学学術交流 会館	(社)日本コンクリート工 学協会北海道支部
2005.10.8 ~ 11.5	「グロピウスから札幌まで 学び舎はデザインテキスト ~生き生きとした学生たち」 建築家清家清展・札幌	札幌市立高等専門学 校	「建築家清家清展・札幌」 実行委員会、札幌市立高等 専門学校

2004 年度財産目録及び収支決算報告

2004 年度 財産目録

日本建築学会北海道支部

資産の部					資金および負債の部				
摘要		前年度末	本年度末	比較	摘要		前年度末	本年度末	比較
基本財産					資	支部基金	3,010,000	3,010,000	0
						学術振興基金	3,840,000	3,660,000	-180,000
						災害調査研究基金	1,730,000	1,730,000	0
						退職金積立金	180,000	240,000	60,000
	計	0	0	0					
運用財産	現金	52,828	160,879	108,051	金				
	預金	453,379	2,331,991	1,878,612					
	普通預金	453,379	2,331,991	1,878,612					
	未収金	0	0	0					
	仮払金	623,359	497,616	-125,743					
	計	1,129,566	2,990,486	1,860,920		計	8,760,000	8,640,000	-120,000
引当財産	基金引当預金	3,010,000	3,010,000	0	負	未払金	0	0	0
	定期預金	3,010,000	3,010,000	0		仮受金	453,468	485,289	31,821
	学術振興基金引当預金	3,840,000	3,660,000	-180,000					
	定期預金	3,840,000	3,660,000	-180,000					
	災害調査基金引当預金	1,730,000	1,730,000	0					
	定期預金	1,730,000	1,730,000	0		計	453,468	485,289	31,821
	職員退職引当預金	180,000	240,000	60,000	繰	前期繰越金	0	0	0
	定期預金	180,000	240,000	60,000		当期過不足金	676,098	2,505,197	1,829,099
	計	8,760,000	8,640,000	-120,000		計	676,098	2,505,197	1,829,099
	合計	9,889,566	11,630,486	1,740,920	合計	9,889,566	11,630,486	1,740,920	

2004 年度 収支決算書

収入の部				支出の部					
摘要	予算額	決算額	増減	摘要	予算額	決算額	増減		
交付金	支部費	1,518,000	1,602,000	84,000	事業費	調査研究事業費	800,000	810,672	10,672
	経営助成費	2,700,000	2,490,000	-210,000		表彰関係費	725,000	838,082	113,082
	事業交付金	1,030,000	1,026,000	-4,000		設計競技費	40,000	3,679	-36,321
	大会交付金	5,500,000	5,500,000	0		卒業設計展示費	40,000	23,159	-16,841
	支部事務所費	1,589,000	1,589,000	0		教育文化事業費	300,000	327,240	27,240
	支部事務費	300,000	300,000	0		ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等経費	2,950,000	3,354,240	404,240
						委託調査研究費	0	2,320,500	2,320,500
計	12,637,000	12,507,000	-130,000	計	4,855,000	7,677,572	2,822,572		
副次収入	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ等収入	2,550,000	5,045,937	2,495,937	特別事業費	大会事業費	5,500,000	5,500,000	0
	調査研究受託収入	0	2,730,000	2,730,000		特別企画事業費	480,000	180,000	-300,000
	雑収入	600,000	773,515	173,515		計	5,980,000	5,680,000	-300,000
	収入利息	5,000	6,848	1,848	会議費	総会費	175,000	196,390	21,390
						役員会費	70,000	59,600	-10,400
	計	3,155,000	8,556,300	5,401,300		運営費	125,000	161,087	36,087
					計	370,000	417,077	47,077	
前期繰越金	676,098	676,098	0	事務費	人件費	2,040,000	2,336,364	296,364	
基金取崩金	480,000	180,000	-300,000		通信費	300,000	289,708	-10,292	
					消耗品費	50,000	43,365	-6,635	
					印刷費	100,000	35,347	-64,653	
					雑費	600,000	731,804	131,804	
					事務所費	2,270,000	2,202,964	-67,036	
					計	5,360,000	5,639,552	279,552	
				基金積立金	0	0	0		
				予備金	383,098	0	-383,098		
小計	16,948,098	21,919,398	4,971,300	小計	16,948,098	19,414,201	2,466,103		
資産収入				資産支出					
合計	16,948,098	21,919,398	4,971,300	合計	16,948,098	19,414,201	2,466,103		
収支差額						2,505,197			

監査報告

2004 年度における社団法人日本建築学会北海道支部の業務及び経理を監査の結果、業務は適法であり、収入支出とも適正なものと認める。

2005 年 5 月 10 日

支部監事 _____

支部監事 _____

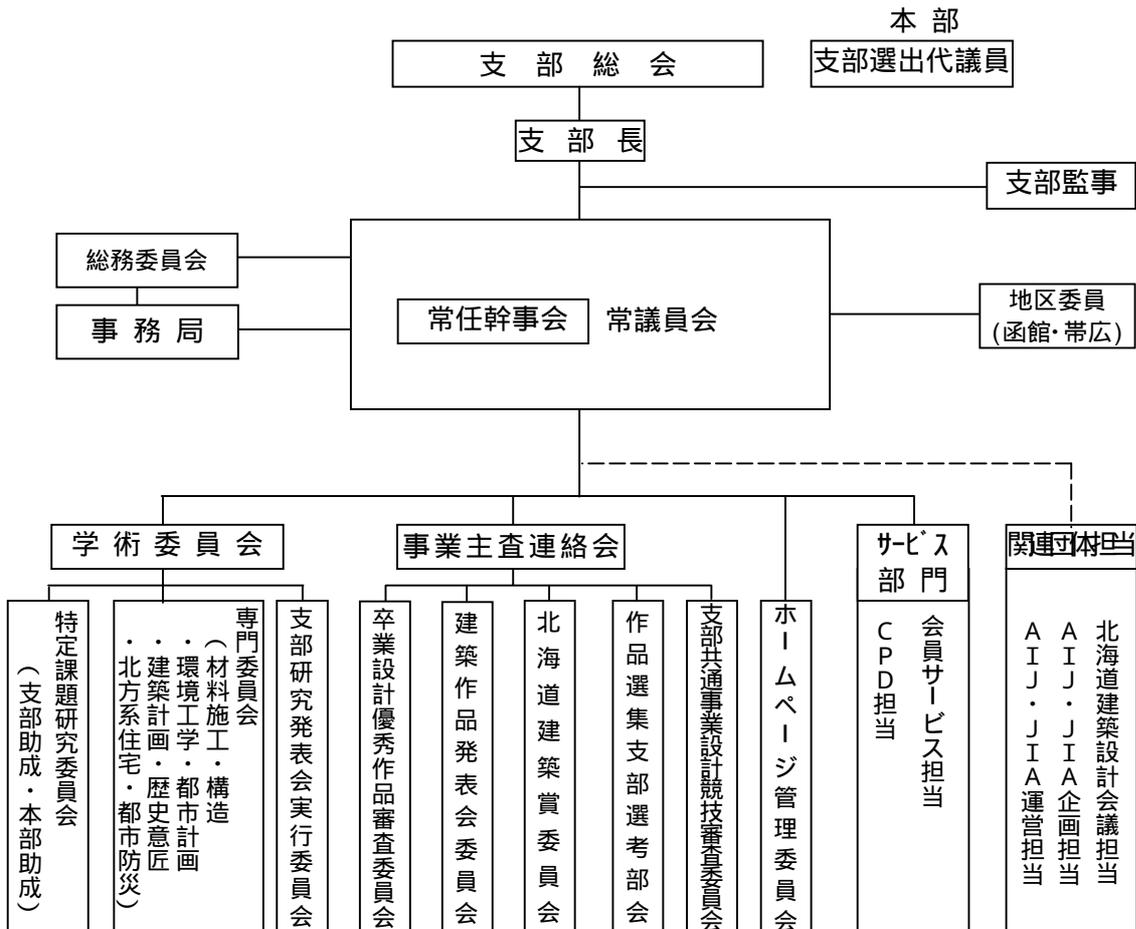
2005 年度事業計画方針案

1. 活動方針

本学会の会員数はこの数年減少してきたが、本年4月時には正会員数が下げ止まりの状況を示した。その要因として、法人会員は継続的に減少していることから、大学院進学者数の増大によるものと推定できる。産業界の劇的な景気回復は見込まれず、少子化の影響が間も無く現れることから、今後の会員数の増大は期待できない。これからの学界活動は会員数の拡大ではなく、活動内容の充実化に精力を向けるべきである。例えば、日本建築学会は学術・技術・芸術の全領域を総合的に扱うことを標榜しながら、実務者会員へのサービスが不足し、北海道では札幌圏に偏重した不均衡なサービスが行われるなど、急務の改善事項がある。

本年度は、本部が取り組む「能力開発支援制度(講習会等の遠隔地配信システムの構築/法人・賛助会員の社内研究制度への支援/履修記録やキャリア登録/など)」を、支部レベルでも積極的に利用あるいは支援する。さらに、北海道建築設計会議等の周辺諸団体との連携を強化し、昨年行った全国大会での経験を生かして一般市民向け行事を地方都市でも開催する。また、活性化委員会は常議員会に吸収し、具体的な作業目標を定めた幾つかのWGがこれを担う。すなわち、21世紀の社会的要求や多様化・複合化する建築界の将来を見据えて、学会支部活動の長期的な戦略を検討するWGを常議員会に設ける。このWGは、学術委員会および事業主査連絡会の中に前年度に発足した将来検討WGとも連携して活動する。

2. 2005 年度執行体制



日本建築学会北海道支部組織構成図

支部長(2004.6.1-2006.5.31)

城 攻君 北海道大学大学院工学研究科教授

新任常議員(2005.6.1-2007.5.31)

小篠 隆生君 北海道大学助手
久保田克己君 北海道日建設計企画開発室室長
澤田 幹夫君 清水建設北海道支店開発営業部部長
高崎 格君 札幌工業高校講師
田中 淳一君 北海道建設部都市計画課主査
玉木 勝美君 伊藤組土建建築部部長
藤原 智史君 北海道電力総合研究所次長

(印 常任幹事)

支部長及び新任常議員は、支部役員選挙開票(2005年4月14日)により決定した。
支部役員選挙管理委員は次の通りであった。(印 委員長)

羽山 広文君 飯田 雅史君 塚田 哲也君 那須 豊治君 南出 孝一君

留任常議員(2004.6.1-2006.5.31)

飯田 雅史君 北海道工業大学教授
杉山 雅君 北海学園大学教授
高橋 章弘君 北海道立北方建築総合研究所環境科学部都市防災科長
塚田 哲也君 大成建設札幌支店設計部長
鳥谷部隆司君 久米設計札幌支社副支社長
南出 孝一君 ドーコン建築都市部副技師長
米田 浩志君 北海学園大学教授

(印 常任幹事)

(常議員 八代克彦君については2005年3月14日付で北海道支部転出により辞任、
そのため次点者の米田浩志君が残任期間就任する)

新任代議員 (2005.4.1 ~ 2007.3.31)

石山 祐二君 北海道大学名誉教授
那須 豊治君 岩田建設技術開発室室長
奈良 謙伸君 奈良建築環境設計室所長
(2005年3月の本部選挙の結果、上記3名が選出された)

留任代議員 (2004.4.1-2006.3.31)

鏡味 洋史君 北海道大学教授
南 慎一君 北海道立北方建築総合研究所主任研究員
横山 隆君 清水建設北海道支店営業部長

新任支部監事 (2005.6.1-2007.5.31)

野田 恒君 伊藤組土建技術部長
(2005年4月の支部常議員会で選出された)

留任支部監事 (2004.6.1-2006.5.31)

千葉 純君 北海道建築指導センター理事長

地区委員（2005.6.1～2006.5.31）

帯広地区委員 小野寺 一彦君 設計工房アーバンハウス主宰

函館地区委員 山本 真也君 函館市企画部次長（兼函館市新幹線誘致推進室長）

3. 支部運営の諸会合の開催

総会

期日 2005年5月20日(金)

会場 北海道第二水産ビル

常議員会（複数回）

常任幹事会（複数回）

選挙管理委員会（支部役員選挙時に開催する）

4. 学術系委員会

4.1 学術委員会（主査：野口 孝博君 委員数 16名、委員会開催予定数4回）

当支部学術委員会主査は本部学術推進委員会の地域委員として参画して、その情報を支部の各専門委員会に向けて伝達する。当学術委員会は、各専門委員会及び特定課題研究委員会から調査研究の企画・計画及び活動の報告を受ける。また支部研究発表実行委員会の企画の審議と承認及び次年度の特定課題研究、支部助成研究及び建築文化週間企画の募集を行い、説明を受けて選定を行う。その他各専門委員会の活動の横断的な連絡などの役割も担う。

第1回目；本部学術推進委員会報告（以下本部報告）各専門委員会及び特定課題研究委員会活動計画、支部研究発表実行委員会の予定、建築文化週間の実施計画

第2回目；本部報告、各専門委員会活動報告、支部研究発表会次年度開催校の決定及び募集要項その他の検討事項、大賞候補募集

第3回目；本部報告、各専門委員会活動報告、支部研究発表会募集要項の決定、次年度の建築文化週間及び特定課題研究の募集

第4回目；本部報告、次年度の事業計画、予算原案検討、次年度の特定課題研究及び建築文化週間の選考、支部研究発表会特別企画の決定、特定課題研究及び建築文化週間の結果報告

4.2 専門委員会

材料施工専門委員会（主査：濱 幸雄君 委員数 22名、委員会開催予定数6回）

建築の材料・施工に関する情報や意見の交換のほか、支部長から諮問される事項の検討、本部との情報交流や諮問事項の検討、最近の施工現場や特色のある建築物や工事現場の見学会、本部主催講習会への協力や北海道に関連する材料施工部門の研究委員会活動を行う。具体的な活動予定は以下の通りである。

1) 本部および支部各種委員会報告と諮問事項の審議

2) 「寒中コンクリート施工指針・同解説」の改定に向けた調査研究および意見交換

3) 見学会の開催 6月開催の委員会で決定

4) 道内巡回講演会

構造専門委員会（主査：桜井 修次君 委員数 20名+1人(オブザーバー)、委員会開催予定数 4回）

これまでに引き続き、委員会を通して道内における構造関係の研究者・技術者との情報交換を

行うとともに、各種行事を企画して地域の会員・市民への啓蒙活動を行う。主な活動予定は次の通りである。

- 1) 委員会の開催 例年通り4回行う。(6月, 9月, 12月, 3月)
- 2) セミナー・講演会等
北海道建築設計会議(建築関係の9団体が所属)と連携して建築構造に関連したセミナーを開催したい。
- 3) 見学会 道内で現在施工中の建築構造物の見学会を行う。
- 4) 災害調査等への実施・協力
地震などの不測の自然災害に対して迅速に対応できる調査体制を準備し、必要に応じて主体として、あるいは他の組織と協力して実施する。

環境工学専門委員会 (主査:石田 秀樹君 委員数 29名、委員会開催予定数 5回)

本部委員会や支部学術委員会等との連絡や、支部研究発表会をはじめとする各種の規定活動に加えて、以下の活動を予定している。北方系住宅専門委員会と協働の特定課題委員会「中高層民間分譲マンションの外断熱改修事例研究」の推進、北海道建築技術協会のWG「断熱住宅の夏対応」への研究協力、道の基幹産業として重要な生産作業環境の改善や貯蔵環境整備などの農業分野への建築技術の応用、寒冷地の住環境改善の継続的課題である「換気計画」、森林バイオマス等を生かして化石エネルギーへの依存を減らす「住まいのエネルギー計画」など多様なテーマを設定して、定期的な勉強会を行い、研究取り組みの必要性等について整理・検討を進める。これ等の活動を基に各種研究助成への応募や、市民・技術者を対象としたシンポジウムや見学会等を行うことを予定している。

建築計画専門委員会 (主査:門谷 眞一郎君 委員数 15名、委員会開催予定数 5回)

ネットワークを介したフィールドワーク、「特色ある住民参加型の建築計画事例の発掘」は継続するものとする。ところで、地方自治体の合併に関し、駆け込み合併と呼ばれた動きも収束を迎えようとしている。そんな中で合併を果たした自治体に住む人々の住民相互の協調関係にも変化があると考えられる。そこで、住民参加の形態に変化の見られる道内の事例をも求めて調査事業を計画している。なお、これらに関する研究情報を集約するシステムとして、今年度、研究者間のコミュニケーション用に開発されたというXOOPSというフリーのグループウェアの導入を検討する。

都市計画専門委員会 (主査:瀬戸口 剛君 委員数 14名、委員会開催予定数 5回)

都市計画委員会は委員のみにとどまらず、広く会員が参加する研究会などをいくつか企画している。平成17年度も北海道内の都市で大きな課題となっている、まちなか居住に関する研究会を継続する。北海道開発局や北海道庁、北方建築研究所、札幌市、函館市とともに、研究会またはフォーラムの開催を予定している。本部都市計画委員会地方都市小委員会との共催で、コンパクトシティ研究会を東北地方において行う予定である。さらに、カリフォルニア大学バークレイ校の教授を招いて、都市計画国際ワークショップの開催を予定している。また、上記まちづくりの職能に関する研究会「まちづくりプラットフォーム」を継続して行う。

歴史意匠専門委員会 (主査:羽深 久夫君 委員数 20名、委員会開催予定数 5回)

2005年度も、道内各地における歴史的建造物の現状把握と発掘、および保存・活用に関する情報交換を積極的に行い、社会や住民へ広く貢献することを目的に活動を行う。2004年度より3ヶ年計画で進められている文化庁・北海道教育委員会の「北海道近代和風建築総合調査」に継続して協力する。10月には建築文化週間企画の見学会・シンポジウム「小樽の歴史的建造物の今と未来 - 今を見る・未来を語る -」を開催する。2ヶ年計画の特定課題研究委員会として「北海道の歴史的建造物における和風意匠の展開過程」の研究調査を継続して行う。道内工業高校巡回講演会への講師派遣を計画する。専門委員会における委員相互の研究交流や海外研修を計画する。

北方系住宅専門委員会（主査：絵内 正道君 委員数 23 名、委員会開催予定数 5 回）
大会PDの後を受けて社会資産として中古住宅をどのように市場活動にのせるか、古さの価値、
住み続ける意義の面から討議する、みんなで考える集会開催を計画したい。また、6月24日、25
日に International Forum『北方圏域における豊かなパブリックスペースの創造：Creation of
Better Open Spaces in Cold Region』を開催する。カナダ、フィンランド、中国、ノルウェーよ
り都市計画家、景観建築家、建築物理研究者、学童遊戯施設研究者などを 招聘しフォーラムおよ
びワークショップを計画している。

都市防災専門委員会（主査：南 慎一君 委員数 21 名、委員会開催予定数 8 回（通信委員
会、個別 WG 委員会等を含む））

本委員会の基本方針は、多領域、多地域に渡る防災関係機関（関係者）の連携を図るため平時
のネットワークづくりを進める。また、委員会内に事業WG及び研究WGを設置して企画、運営
を行う。事業WGでは、当委員会HPの運営、防災ニュースの発行、見学会等の企画を行う。こ
れらの活動を通して本部災害委員会と連携した災害調査活動体制の強化を図る。研究WGでは、
地震被害調査手法及び冬季の避難問題の検討を進めるほか、本部災害委員会と連携して市民企画
講座の企画を行う。また、他の学協会（北海道強震動研究会）と連携した調査研究、研究会開催
を目指す。

4.3 特定課題研究委員会

(2004 年度より)

北海道近代和風建築調査委員会（主査：羽深 久夫君 委員数：20 名 委員会開催予定：2 回）
2004 年度より 3 ケ年計画で進められている文化庁・北海道教育委員会の「北海道近代和風建築
総合調査」と連携しながら、2004 年度から実施してきた調査研究を継続して、北海道内の地方公
共団体や地域住民と連携して歴史的建造物の保存活用を図るための基本台帳整備をめざして、道
内の 14 支庁における歴史的建造物の遺構確認を踏まえて、北海道の近代建築における和風意匠の展
開過程を都市住宅や民家に着目して検討する。

旧軍施設研究委員会（主査：川島 洋一君 委員数：11 名 委員会開催予定：6 回）

本委員会の 2 年目 2005 年度は、延期されたトーチカのコンクリ - ト供試体を現地で取り出し
圧縮実験を実施し、現在のコンクリ - トとの比較分析と考察を行う事から開始し、前年に引き続
き現存トーチカの発見と実測調査を行う。また師団司令部が置かれていた旭川及び他地域に現存
する鉄骨、組積造施設の発見と実測調査、さらにすでに解体された同種建築の記録等(川島実施済)
の整理分析を行う。

これらの研究成果から、旧軍施設のコンクリ - ト、煉瓦、石造建築について建築形態・技術・
意匠等について分析し、その特徴と当時の一般建築への影響について考察し、本研究の成果とす
る。前年と同様に支部研究発表会で公表する。

(2005 年度より)

寒中コンクリート施工調査研究委員会（主査：深瀬 孝之君 委員数：11 名）

寒中コンクリートでは、技術的根拠に基づいた合理的かつ経済的な施工が望まれる。現在、寒
中コンクリート施工指針においてその技術的指針が取りまとめられているが、実施工での結果は
少なからず乖離しているといった課題も有している。

本研究委員会では、施工実務者を中心として、実施工で適用している調合計画手法・強度管理
手法などに関する調査ならびに実績データの収集を行い、現行指針の技術的な課題を抽出するこ
とを主な目的とする。

また、2008 年度に予定されている寒中コンクリート施工指針の改定に向けて、本委員会の活動
内容を関連する本部委員会に提案することとする。

4.4 本部からの支部助成金による研究委員会

(2005年度より)

中高層マンションの外断熱改修委員会(主査:佐藤 潤平君 委員数:14名)

(研究の概要)

1970年代に建設された中高層分譲マンションが大改修、建て替の時代に入っている。地球環境時代を迎え、改修しながら長期的に継続して居住する方向が望ましい方向であることは、異論のないところであろう。この際、長期耐久性と新たな住宅価値を獲得することが長期居住の条件で、外断熱はこの点で理想的な工法である。しかし、現実にはイニシャルコストの壁と多数の居住者の合意形成の困難さから、中高層の分譲マンションで外断熱改修した例はこれまでなかった。2004年、札幌市内で11階建ての高層集合住宅で外断熱改修が国内始めて実現した。ここで行われた技術検討からコスト、合意形成までのプロセスは、今後の外断熱改修の普及に基盤となる情報を提供するものと考えられる。

本研究は、これまで越えることのできなかつた外断熱改修の壁を突破して改修に至った過程を分析すると共に、経済、室内環境、エネルギーなど改修に関わる総合的な評価を行い、中高層民間分譲マンションの外断熱改修システムの確立をめざす調査研究である。

研究内容は以下のとおりである。

- 1) 外断熱改修へのプロセス調査
- 2) 対象建物の改修技術の分析
- 3) 対象建物の改修結果の調査と分析
- 4) 外断熱改修に向けたプロセスの構築

5. 支部研究発表会

5.1 支部研究発表会実行委員会・WG(主査:千歩 修君 委員数19名 委員会開催予定数5回 釧路WG 11名)

支部研究発表会を企画・運営することを責務として支部研究発表会実行委員会が設置されており、この委員会の主な活動内容を以下に示す。

- 1) 支部研究発表会日程と会場の決定
- 2) 支部発表会の論文原稿種別、発表形式の確認、決定
- 3) 論文執筆要領の作成と原稿募集記事の建築雑誌掲載および原稿募集事業の実施
- 4) 特別企画のテーマ募集事業の実施および特別企画テーマの選定(釧路WG)
- 5) 論文原稿の受付・編集作業の実施、研究発表会プログラムの作成および建築雑誌掲載記事の手配
- 6) 支部研究発表会事業の実施

5.2 支部研究発表会の実施

2005年度の研究発表会は以下のように予定されている。

論文締切り:4月26日(火)必着

開催日時:7月16日(土)

場所:釧路工業高等専門学校

6．表彰

6．1 北海道建築賞

(1) 賞の概要

建築作品をささえる「先進性」、「規範性」、「洗練度」の3つの視点から視察、議論を通して選考し、北海道建築賞の表彰を行い、より一層の建築創作活動の促進を図る。

(2) 北海道建築賞委員会の実施

上記の方針で委員会を実施する。

6．2 卒業設計優秀作品（日本建築学会北海道支部賞）

(1) 賞の概要

大学・短大・高専・専門学校・工高の卒業設計優秀作品の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

(2) 卒業設計優秀作品審査委員会の実施

2005年度卒業設計優秀作品審査委員会においては、2004年度と同様、2005年度卒業設計作品について「大学」「短大・高専・専門学校」「工業高校」の分野別に、優秀作品審査委員会を実施し、各部門、金、銀、銅、各賞を選出する。

また、講評の論点を確認し、各選考作品の講評を行う。

6．3 優秀学生・生徒（日本建築学会北海道支部賞）

大学・短大・高専・工高の優秀学生・生徒の表彰を行い、北海道地域の文化、建築教育の向上を図る。

6．4 日本建築学会北海道支部功労賞

当支部の維持・発展にとって功績・功労のあった支部に所属する会員、または所属した会員に対して、支部としての感謝の意を表するとともに、支部活動の活性化と意識の高揚を図ることを目的とし、表彰を実施する。

7．北海道建築作品発表会

7．1 北海道建築作品発表会委員会（主査：小篠 隆生君 委員数3名 実行委員10名 委員会予定開催数6回（実行委員会2回を含む））

2005年度の目標は、前回の発表会で好評であった発表形式の更なる充実という建築作品発表会自体の目標と、事業系主査連絡会で議論され出している北海道建築賞との連携の中のひとつとして、建築作品発表会の中で北海道建築賞受賞作品の発表を行うことである。これについては、委員会同士の調整、スケジュール、プログラム等解決しなければならない課題も多いが、実施できることから始めていけばよいと考える。建築作品発表会にとって北海道の建築の質の向上に寄与することが重大な使命であり、建築作品を発表することによる情報発信とそこで行われる議論の蓄積と充実を今年も目指していきたい。

7.2 北海道建築作品発表会の実施予定

作品の応募時期：7月下旬～8月下旬

作品発表会開催時期：10月下旬～11月初旬の中の1日間

作品発表会開催場所：道立近代美術館講堂（予定）

8. 特別委員会

8.1 事業主査連絡会（事業系5委員会の主査、事業主査連絡会担当常議員 予定開催数：複数回）

事業系5委員会と意思決定機関である常議員会との情報交換を密にし、事業内容の充実と効率化、魅力ある事業企画実施のため、2005年度も引き続き、活動状況、予算執行状況、活動内容と予算計画などに関して検討を行う。加えて、事業の活性化に向けた具体的改善策を、WGを発足させて議論を行う。

8.2 総務委員会（委員長：羽山 広文君 委員数5名 予定開催数2回）

本委員会の目的である北海道支部事務局運営の健全性を維持するために、適宜委員会を開催し財務管理・事務局業務管理について検討する。昨今の経済状況により支部の財政状況がさらに悪化していることから、各事業に対して早めの詳細予算策定および事業終了後の決算報告についての提出を厳格にして、見通しのある財務管理を進める予定である。さらに、事務局業務の効率化、会議室の有効利用についても適宜検討を継続的に行っていく。また、日本建築家協会北海道支部との合同事務所の運営、合同企画についても検討を行う。

総務委員会(2005年度)(予定)

委員長	羽山 広文君	北海道大学	(教育機関の常議員経験者)
委員	那須 豊治君	岩田建設	(民間機関の常議員経験者)
"	福島 明君	北海道建設部	(行政機関の常議員経験者)
"	未選出		(2004年度選出の常任幹事)
"	未定		(2005年度選出の常任幹事)

委員の交代は、6月1日を予定している。

8.3 ホームページ管理委員会（主査：高橋 章弘君）

本委員会は、当支部のホームページの維持管理することを目的とする。2005年度は、前年度に引き続き、会員間の情報の共有を進めるとともに、広く支部活動のPRするため、委員会活動状況、及び各種行事の案内・成果などを迅速に広める等とともに、更なる充実を図る。

9. 講習会・シンポジウム等の開催

本部主催による講習会・講演会のほか、地域の要請にこたえる各種の講演・講習会を、工業高校・自治体及び関連諸団体等の協力を得て複数の地域で企画実施する。

9.1 本部主催講習会

2005年度本部主催支部共通事業講習会を開催する。

9.2 講演会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

9.3 展示会

支部卒業設計優秀作品を学会支部ホームページにて公開する。また、全国大学・高専卒業設計優秀作品巡回展ならびに道内工高卒業設計優秀作品巡回展を実施する。

9.4 見学会

各専門委員会等の主催により、自治体、関係諸団体等の協力を得て企画実施する。

10. 本部関連事業・その他

10.1 2005年度支部共通事業設計競技の実施（主査：藤島 喬君 委員数5名 委員会開催予定数1回）

2005年度設計競技審査委員会の委員には昨年度同様、主査・藤島喬、委員・川人洋志、小西彦仁、柳田良造、山之内裕一の5名で行う予定である。

2005年度の課題は「風景の構想—建築をとおしての場所の発見」と決定され、7月中に支部審査を行う予定である。また、本部審査委員として米田浩志君（北海学園大学）を推薦した。尚、例年支部での応募作品が少ない事から、各大学関係者に参加の呼びかけをする予定である。

10.2 作品選集支部選考部会（主査：佐藤 孝君 委員数9名）

2005年度も、6月の本部委員会の決定事項を受けて、支部では7月から8月にかけて部会を開催予定である。「作品選集」掲載数はその総数が100題以内と決まっており、各支部から本部委員会への推薦数は、支部への応募数に応じて決定されている。つまり支部への応募数が多いほど、本部への推薦枠が多く獲得できるわけである。2005年度は、支部会員にさらに周知徹底を図ることで、質の高い作品がより多く応募されるものとした。

10.3 建築文化週間

グループセミナーなどを通して地域との研究交流を深め、また建築文化週間などの文化事業を通じて、開かれた学会として社会に対する文化活動の推進を図る。本年度予定している文化関連事業は、以下の2件を予定している。

1) 「小樽の歴史的建造物の今と未来 今を見る・未来を語る」

（歴史意匠専門委員会）

2) 「地球社会の生き方探し」

（北方系住宅専門委員会）

1 1 . 建築関連団体との活動

1 1 . 1 AIJ-JIA 合同委員会（運営委員、企画委員会）（委員数(AIJ)：常任 6 名、非常任 1 名 委員会開催予定数 6 回）

引き続き、日本建築家協会北海道支部(JIA)と合同委員会を開催し、合同事務所の運営を協議するとともに、合同で行う企画について協議する。ジョイントセミナーについても継続して行うように計画を進める。また、北海道建築設計会議と連携して、関連団体を含めた企画等の活動を積極的に行う。

1 1 . 2 北海道建築設計会議

参加が 9 団体に拡大された本会議では、本年度に CPD の共同化や共同プログラムに関する継続協議や実行を予定している。また今年度は「福祉のまちづくり」を主要テーマの一つとして掲げ、情報収集や意見交換を行う予定である。

2005 年度収支予算案

日本建築学会北海道支部

収入の部					支出の部				
項 目	予算額	昨年度	増減		項 目	予算額	昨年度	増減	
交付金	計	6,983,000	12,637,000	-5,654,000	事業費	計	5,105,000	4,855,000	250,000
	支部費	1,514,000	1,518,000	-4,000		調査研究事業費	860,000	800,000	60,000
	経営助成費	2,550,000	2,700,000	-150,000		表彰関係費	885,000	725,000	160,000
	事業交付金	1,030,000	1,030,000	0		設計競技費	40,000	40,000	0
	大会交付金	0	5,500,000	-5,500,000		卒業設計展示費	40,000	40,000	0
	支部事務所費	1,589,000	1,589,000	0		教育文化事業費	330,000	300,000	30,000
	支部事務費	300,000	300,000	0		ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾞﾐ等経費	2,950,000	2,950,000	0
					委託調査研究費	0	0	0	
副次収入	計	4,115,000	3,155,000	960,000	特別事業費	計	290,000	5,980,000	-5,690,000
	ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾞﾐ等収入	2,510,000	2,550,000	-40,000		大会事業費	0	5,500,000	-5,500,000
	調査研究受託収入	0	0	0		特別企画事業費	290,000	480,000	-190,000
	雑収入	1,600,000	600,000	1,000,000	会議費	計	245,000	370,000	-125,000
	収入利息	5,000	5,000	0		総会費	175,000	175,000	0
					役員会費	60,000	70,000	-10,000	
繰入金	計	2,795,197	1,156,098	1,639,099	事務費	計	5,330,000	5,360,000	-30,000
	前期繰越金	2,505,197	676,098	1,829,099		人件費	2,040,000	2,040,000	0
	基金取崩金	290,000	480,000	-190,000		通信費	310,000	300,000	10,000
						消耗品費	50,000	50,000	0
						印刷費	60,000	100,000	-40,000
						雑費	600,000	600,000	0
					事務所費	2,270,000	2,270,000	0	
				予備金	計	2,923,197	383,098	2,540,099	
					基金積立金	1,510,000	0	1,510,000	
					予備金	1,413,197	383,098	1,030,099	
合 計	13,893,197	16,948,098	-3,054,901	合 計	13,893,197	16,948,098	-3,054,901		

基金・積立金内訳

2004年度末		2005年度末	
支部基金	3,010,000	支部基金	3,510,000
災害調査研究基金	1,730,000	災害調査研究基金	2,200,000
学術振興基金	3,660,000	学術振興基金	4,200,000
職員退職積立金	240,000	職員退職積立金	300,000

北海道支部地域法人正会員・賛助会員名簿
法人正会員

2005年3月末現在

会員番号	口数	会員社名・団体名	会員番号	口数	会員社名・団体名
00502-83	1	荒井建設(株)	00547-58	2	戸田建設(株)
00503-64	1	伊藤組土建(株)	00552-83	2	飛鳥建設(株)
00505-34	2	岩倉建設(株)	00553-56	1	(株)巴コ-ボレ-ション
00505-50	2	岩田建設(株)	00557-04	1	日鐵セメント(株)
00512-89	3	(株)大林組	00614-45	1	日本デ-タサ-ビス(株)
00512-97	1	(株)大林組	00555-50	1	西松建設(株)
00515-72	1	(株)岡田設計	00560-51	1	(株)日本設計
00617-89	1	(株)画工房	00561-82	1	日本防水総業
00567-92	2	北電興業(株)	00573-66	1	(株)三菱地所設計
00585-32	1	加藤組土建総務部 総務課	00625-81	1	(株)アトリエ・アク
00517-00	5	鹿島建設(株)	00586-89	1	北農設計センタ-
00611-61	1	曾澤高圧コンクリ-ト(株) 技術部	00597-74	1	(株)総研設計
00614-38	1	(株)ホ-ム企画センタ- 総務部	00565-64	1	(株)フジタ
00523-82	1	(株)熊谷組	00584-43	1	萩原建設工業(株) 建築部
00530-03	1	(株)札幌日総建	00616-32	1	(株)北方住文化研究所
00568-23	2	(株)北海道日建設計	00568-07	1	(株)ドーコン
00673-45	1	桜井鉄工(株)	00618-60	1	北海道建築設計監理 (株)
00571-46	3	丸彦渡辺建設(株)	00568-15	2	北海道コンクリ-ト 工業
00540-41	5	大成建設(株)	00531-84	1	清水建設(株)
00575-10	1	宮坂建設工業(株)	00538-83	2	(株)田中組
00544-49	2	(株)竹中工務店	00545-54	3	(株)地崎工業
00674-76	1	(株)間組 札幌支店建築部	00674-50	1	(株)中原建築設計 事務所
00577-80	1	吉田建築設計事務所	00684-14	1	(株)三暁プレコン システム
00650-00	1	(株)松村組札幌支店	00685-29	1	不二サッシ(株)北海道 支店
00656-02	1	坂本建設(株)	00697-87	1	(株)夢創計画室
00645-91	1	豊平製鋼(株)	00704-45	1	(株)アトリエ・ブク
00651-49	1	(株)アイエイ研究所	00704-09	2	(財)北海道建築指導 センター
00651-65	1	(株)北文創	00708-51	2	北海道旅客鉄道(株)
00652-54	1	新太平洋建設(株)	00701-51	1	(株)INA 新建築研究所 札幌支社
00659-11	1	(株)都市設計研究所	00710-77	1	(株)久米設計札幌支社
00662-76	1	(株)松原組一級建築士 事務所	00684-22	1	(株)北海道サンキット
00666-08	1	光道路サ-ビス(株) 構造計算課			
00674-84	1	五洋建設(株) 札幌支店			
00549-52	1	東急建設(株) 札幌支店			
00683-75	1	三和シャッタ-工業(株) 北海道ビル建材支店			

賛助会員

会員番号	口数	会員社名・団体名
00814 -70	3	北海道電力(株)
00810 -06	1	道都大学図書館
00813 -49	1	(株)NTT ファシリテイ -ズ北海道支店 営業推進部
00815 -01	1	北海学園大学 図書館
00815 -19	1	北海道中央工学院 専門学校



社団法人 日本建築学会北海道支部

〒060-0042 札幌市中央区大通西7丁目2

ダイヤビル 2階

TEL.011-219-0702 FAX.011-219-0765

E-mail: aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

<http://news-sv.aij.or.jp/hokkaido/>